



2011年3月期 第3四半期 決算説明資料

2011年 2月 7日
富士ソフト株式会社



目次

- P. 1 連結業績ハイライト
- P. 2 主なグループ会社の売上高
- P. 3 連結セグメント別売上高
- P. 4 連結営業利益の主な変動要因
- P. 5 連結営業外損益の主な変動要因
- P. 6 連結貸借対照表
- P. 7 連結キャッシュ・フロー計算書
- P. 8 連結S!事業の受注高・受注残
- P. 9 2011年3月期通期 連結業績予想
- P.10 単体業績について

● 連結業績ハイライト

売上高は、主要子会社の減収を主因に 6.5%となったものの、10-12月期では回復基調

主要子会社のヴィクサスが前年度の大型案件の反動減および顧客の開発延期により45億円の減収となり、連結売上高は前年同期比6.5%減の977億円となりました。

ただし、10-12月期では組込系、業務系ともに受注環境が改善。単体売上高は10-12月期、第3四半期累計ともに前年同期を上回りました。また、ヴィクサスを除く連結売上高は、10-12月期では14億円の増収となり、回復基調にあります。

営業利益は、売上高の減少により前年同期比 6.5%

営業利益は、経費の削減や開発案件の不採算化抑制による原価率の改善を図ったものの、売上高の減少により、前年同期比6.5%減の約19億円となりました。

四半期純利益は、前年度第3四半期に不動産の売却益を特別利益に計上した反動で、前年同期比54.7%減の12億円となりました。

(単位:百万円)

	2011年3月期 3Q累計実績	2010年3月期 3Q累計実績	前同差	前同比
売上高	97,722	104,557	6,834	93.5%
営業利益	1,875	2,005	129	93.5%
営業利益率	1.9%	1.9%	0.0%	
経常利益	1,865	2,101	236	88.7%
経常利益率	1.9%	2.0%	-0.1%	
四半期純利益	1,237	2,731	1,493	45.3%
四半期純利益率	1.3%	2.6%	-1.3%	



● 主なグループ会社の売上高

(単位:百万円)

	2011年3月期 3Q累計実績	2010年3月期 3Q累計実績	前同差	前同比
富士ソフト(東証一部)	50,814	50,599	215	100.4%
サイバネットシステム(東証一部)	9,234	10,907	1,672	84.7%
ヴィンキュラム ジャパン(JASDAQ)	6,735	6,907	171	97.5%
サイバーコム(JASDAQ)	4,460	4,643	182	96.1%
ヴィクサス(非上場)	15,458	19,956	4,497	77.5%
上記5社合計(連結消去前)	86,703	93,013	6,309	93.2%

主なグループ会社の売上高のポイント

サイバネットシステム

機械系、光学系等ソフトウェアの販売及び保守契約の更新が好調に推移したものの、前年度第1四半期まで販売していた解析ソフトウェア「MATLAB」販売終了の影響により減収となりました。

ヴィンキュラム ジャパン

10-12月期はシステム保守・運用が堅調に推移したことにより前年同期を上回り、第3四半期累計の減少幅は上期の5.8%から2.5%に縮小しました。

サイバーコム

10-12月期は受注案件の規模拡大があったため前年同期を上回り、第3四半期累計の減少幅は上期の8.7%から3.9%に縮小しました。

ヴィクサス

前年度の大型案件の反動減に加え、上期から続く主要顧客の発注延期により、大幅な減収となりました。

単体業績は、P.10をご参照ください



● 連結セグメント別売上高

(単位:百万円)

	2011年3月期 3Q累計実績	2010年3月期 3Q累計実績	前同差	前同比
売上高 合計	97,722	104,557	6,834	93.5%
SI事業	90,266	96,914	6,647	93.1%
組込系ソフトウェア開発	28,119	29,045	926	96.8%
業務系ソフトウェア開発	34,079	34,846	766	97.8%
アウトソーシング事業	11,682	13,512	1,830	86.5%
その他SI事業	16,384	19,510	3,125	84.0%
ファシリティ事業	1,607	1,612	4	99.7%
その他事業	5,848	6,030	182	97.0%

セグメント別売上高のポイント

組込系ソフトウェア開発

富士ソフトはデジタルテレビ関連が引き続き好調で微増となったものの、サイバーコム の減少分を補いきれず、前年同期比3.2%減となりました。

業務系ソフトウェア開発

富士ソフトでEC(イーコマース)関連や教育関連の売上が堅調だったことに加え、イデア・コンサルティング新規連結の増収があったものの、ヴィクサスの前年度の流通系大型案件の反動減が大きく、前年度を下回りました。

アウトソーシング事業

ヴィクサスの特定顧客のシステム保守・運用減少を主因に、大幅に減少しました。

その他SI事業

富士ソフトの前年度の大型案件開発終了に伴う反動減と、サイバネットシステムの「MATLAB」販売終了に伴う減収を主因に、大きく減少しました。

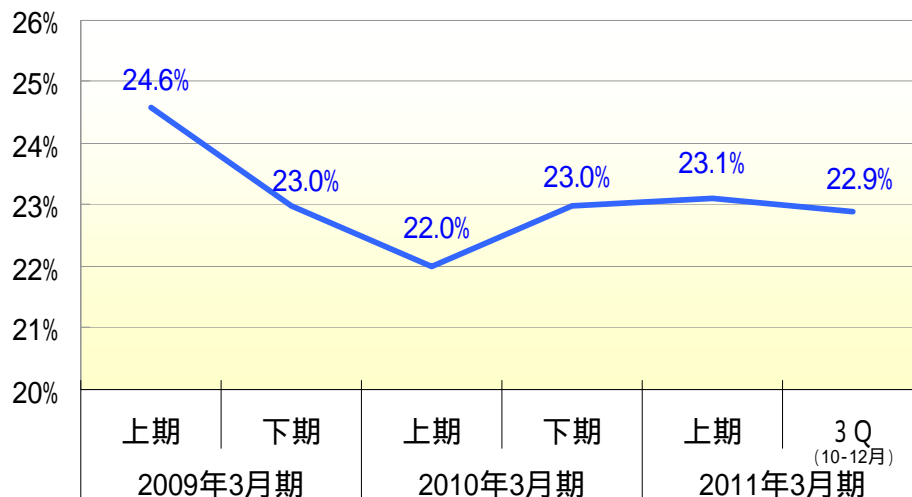


連結営業利益の主な変動要因

(単位:百万円)

	2011年3月期 3Q累計実績	2010年3月期 3Q累計実績	前同差	前同比
売上高	97,722	104,557	6,834	93.5%
売上原価	75,234	81,135	5,900	92.7%
売上原価率	77.0%	77.6%	- 0.6%	
売上総利益	22,487	23,421	933	96.0%
売上総利益率	23.0%	22.4%	+ 0.6%	
販管費	20,611	21,416	804	96.2%
販管費率	21.1%	20.5%	+ 0.6%	
営業利益	1,875	2,005	129	93.5%
営業利益率	1.9%	1.9%	+ 0.0%	

売上総利益率の推移



営業利益のポイント

売上総利益率の主な変動要因

・富士ソフト (前同差+0.1%)
プロジェクト管理強化による開発案件
不採算化抑制の効果

・サイバネットシステム (前同差-1.0%)

主力商品「MATLAB」の販売終了に
伴う売上総利益率の悪化

・ヴィンキュラム ジャパン (前同差+7.7%)

前年度中国子会社への業務移管費用
発生の変動による売上総利益率の改善

販管費の主な変動要因

・販管人件費 (前同差 + 390百万円)
営業活動強化に伴う増加

・事務委託費 (前同差 442百万円)
業務効率化に伴う委託業務の減少

・調査研究費 (前同差 303百万円)
ロボットテクノロジー関連の初期研究
開発終了等に伴う減少

・採用研修費 (前同差 156百万円)
新卒、中途採用数の減少に伴う採用・
教育コストの減少

・地代家賃 (前同差 128百万円)
自社ビル利用率向上に伴う、賃貸
オフィス利用の減少



連結営業外損益の主な変動要因

(単位:百万円)

	2011年3月期 3Q累計実績	2010年3月期 3Q累計実績	前同差	前同比
営業利益	1,875	2,005	129	93.5%
営業利益率	1.9%	1.9%	+ 0.0%	
営業外収益	1,604	953	650	168.2%
営業外費用	1,615	857	757	188.4%
経常利益	1,865	2,101	236	88.7%
経常利益率	1.9%	2.0%	- 0.1%	
特別利益	196	2,786	2,590	7.0%
特別損失	99	296	197	33.4%
税金等調整前四半期純利益	1,962	4,591	2,629	42.7%
法人税等合計	484	835	350	58.0%
少数株主利益	239	1,025	785	23.4%
四半期純利益	1,237	2,731	1,493	45.3%
四半期純利益率	1.3%	2.6%	- 1.3%	

営業利益以下のポイント

営業外収益 (前同差+650百万円)

営業外費用 (前同差+757百万円)

ヴィクサスにおいてシステム
サービス解約収入(897百万円)と
解約損(866百万円)を計上

特別利益

東証コンピュータシステムにお
いて投資有価証券売却益
(166百万円)を計上



連結貸借対照表

(単位:百万円)

	2011年3月期 3Q 期末	2010年3月期 期末	前期末差
流動資産	51,307	55,306	3,998
現金及び預金	15,064	16,741	1,676
受取手形及び売掛金	25,914	27,215	1,300
未収入金	735	1,576	841
その他	9,593	9,773	180
固定資産	113,388	113,544	156
有形固定資産	77,333	78,375	1,042
無形固定資産	12,223	12,424	200
投資その他の資産	23,831	22,744	1,087
資産合計	164,695	168,850	4,155
流動負債	50,364	52,462	2,098
買掛金	5,998	8,701	2,703
短期借入金・1年内返済予定の長期借入金	33,446	31,216	2,230
未払費用	4,946	5,854	908
その他	5,973	6,690	717
固定負債	30,989	33,090	2,101
長期借入金	21,874	24,202	2,327
その他	9,114	8,888	226
負債合計	81,353	85,553	4,199
純資産合計	83,342	83,297	44
負債純資産合計	164,695	168,850	4,155

貸借対照表のポイント

売掛金・買掛金
季節要因に伴う減少

有形固定資産 (前期末差 1,042百万円)
設備投資は行ったものの、減価償却の進行による減少

投資その他の資産

(前期末差 + 1,087百万円)

投資有価証券の増加(439百万円)
繰延税金資産の増加(226百万円)等

借入金

長期借入金の期限到来による流動負債への移行があるも、借入金の圧縮を継続



連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	2011年3月期 3Q累計実績	2010年3月期 3Q累計実績	前同差
営業活動によるキャッシュ・フロー	5,395	1,834	3,560
投資活動によるキャッシュ・フロー	6,149	3,720	2,429
財務活動によるキャッシュ・フロー	922	7,036	6,114
現金及び現金同等物の増減額	1,741	8,993	7,251
現金及び現金同等物の期首残高	16,687	25,465	8,778
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額	85	-	85
現金及び現金同等物の四半期末残高	15,030	16,472	1,441

キャッシュ・フローのポイント

営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前純利益は不動産売却益を計上した前年同期より減少しているものの、未払人件費や法人税支払額等が減少しているため、前年同期に比べ35億円増加しています。

投資活動によるキャッシュ・フロー

当期は有形固定資産(2,321百万円)、無形固定資産(2,633百万円)、投資有価証券(1,358百万円)の取得がありました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

2008年秋からの金融情勢の変化に対応できるように積み増していた現預金を、前期において有利子負債返済に充当しましたが、当期は期初の現預金が適正水準であったため、大幅な増減はありません。



連結SI事業の受注高・受注残

(単位: 百万円)

	受注高				受注残			
	2011年3月期 3Q累計実績	2010年3月期 3Q累計実績	前同差	前同比	2011年3月期 3Q末実績	2010年3月期 3Q末実績	前同差	前同比
SI事業 合計	85,869	95,401	9,532	90.0%	32,014	31,141	872	102.8%
組込系ソフトウェア開発	28,134	29,402	1,267	95.7%	8,302	8,643	341	96.1%
業務系ソフトウェア開発	32,535	35,832	3,296	90.8%	11,415	10,882	533	104.9%
アウトソーシング事業	9,701	14,024	4,322	69.2%	6,655	5,209	1,445	127.7%
その他SI事業	15,497	16,142	645	96.0%	5,641	6,406	764	88.1%

受注高・受注残のポイント

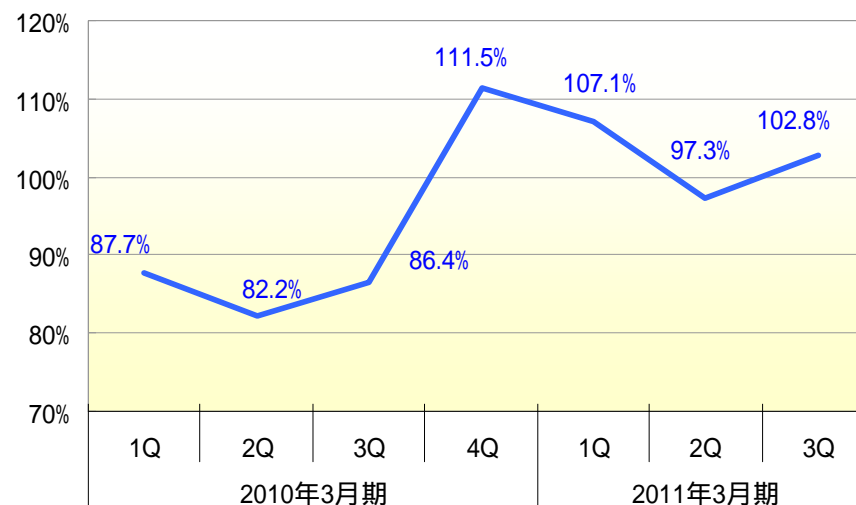
受注高のポイント

徐々に受注に回復感がでてきており、**10-12月期では前同比103.7%と前年同期を上回りました。**しかし、上期の減少分は補いきれず、第3四半期累計では前年同期比10.0%の減少となりました。

受注残のポイント

業務系ソフトウェア開発は製造業、流通業、その他分野(EC関連、教育等)が増加しています。アウトソーシング事業は、前年度受注した大型の保守運用案件を主因に増加しています。

SI事業全体の受注残の推移





2011年3月期通期 連結業績予想

第4四半期のポイント

(単位:百万円)

	2011年3月期			通期計画
	3Q累計実績	4Q見込み	前同比	
売上高	97,722	39,277	105.8%	137,000
売上原価	75,234	30,265	105.5%	105,500
売上原価率	77.0%	77.1%		77.0%
売上総利益	22,487	9,012	106.7%	31,500
売上総利益率	23.0%	22.9%		23.0%
販管費	20,611	6,588	92.0%	27,200
販管費率	21.1%	16.8%		19.9%
営業利益	1,875	2,424	188.3%	4,300
営業利益率	1.9%	6.2%		3.1%
経常利益	1,865	2,634	176.7%	4,500
経常利益率	1.9%	6.7%		3.3%
当期(四半期)純利益	1,237	1,462	149.3%	2,700
当期(四半期)純利益率	1.3%	3.7%		2.0%

売上高

富士ソフトにおいて受注環境回復と、子会社において第3四半期時点で開発延期となっている案件の獲得を見込み、前年同期比で5.8%の増加を見込んでいます。

売上総利益率

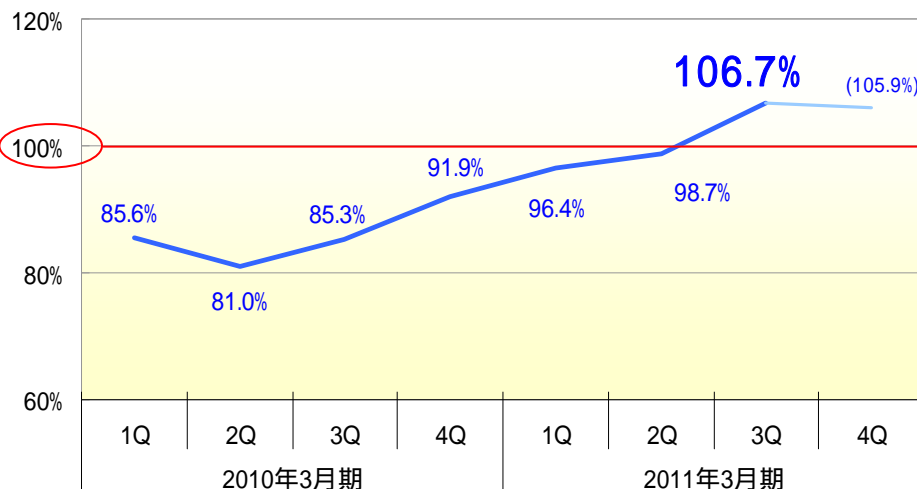
売上増加に伴い、社内技術者稼働率向上や外注化による改善により、3Q累計と同水準を見込んでいます。

販管費

グループ全社において引き続き圧縮していくことで、前年同期より8%削減を目指します。

● 単体業績について

単体売上高の前年同期比推移



単体業績はお客様の開発環境、IT投資マインドが徐々に回復してきたことに加え、「JPPGG戦略」(決算補足資料 P.15)の効果が徐々に現れてきたことにより、業績が回復基調にあります。

引き続き、

**「強みを生かした市場創造！
存在感あるユニークな企業グループへ」**

を基本方針に、業績の回復・拡大に努めます。

セグメント別のポイント

組込系ソフトウェア開発 (10-12月期 前同比100.2%)
デジタルテレビ向けソフト「FSDTV」関連の売上が好調だったほか、工作機器関連やOA機器関連のソフトウェア開発も好調でした。

業務系ソフトウェア開発 (10-12月期 前同比128.8%)
製造業のお客様においてIT投資が再開されつつあるほか、引き続きEC関連が好調でした。

アウトソーシング事業 (10-12月期 前同比158.7%)

その他SI事業 (10-12月期 前同比81.8%)

金融機関の大型案件が終了したことに伴い「その他SI事業」が減少し、同案件のシステム運用がスタートしたことにより「アウトソーシング事業」が増加しています。

その他、データセンタービジネスは各センターともに稼働率を伸ばしており、全般的に好調です。



本資料に掲載されている業績の見通し等将来に関する情報は、現在入手可能な情報に基づいて合理的と判断したものです。実際の業績は市場動向、経済情勢など様々な要因の変化により大きく異なる可能性がありますことをご承知おき下さい。

また、資料配布の目的が、当社株式の保有継続および追加購入を推奨するものではないことも、あわせてご理解いただきますようお願い申し上げます。